

達成感・連帯感が スポーツの継続性を高める

鹿嶋市スポーツ推進委員連絡協議会
会長 大岩 一郎さん(平井)



スポーツ推進委員連絡協議会の活動について

現在、鹿嶋市では25名がスポーツ推進委員として活動しており、フットサル大会や鹿嶋まつりでのスポーツチャレンジコーナー、カシマスポーツセンターでエンジョイスports、市地区対抗ソフトバレーボール大会、鹿行地域対抗の球技大会等の競技運営や審判等を行っています。さらに、各推進委員は自地区担当の公民館を拠点に、ニュースポーツや軽スポーツ等の企画、運営、実技指導を行っています。

また、市全体のウォーキングイベントの実施、近年では、パラリンピック競技種目であるポッチャの普及に力を注いでいます。広域的な活動としては、鹿行地域のスポーツ推進委員の研修を毎年実施しており、鹿嶋市が当番だった時には、テレビでお馴染みの講師を招いてラジオ体操講習を行い正しい動作などを学びました。

現在の活動を始めたきっかけ

活動のきっかけは、約30年前に公民館行事に参加していた際、体育指導員(現在はスポーツ推進委員)にならないかと勧められ、元々体を動かすことが好きだったのでお誘いを引き受けました。当時は、鹿島郡大会や鹿島町のスポーツ行事に参加する選手たちを

サポートする活動を主に行っていたように思います。その後、徐々にですがニュースポーツ等の普及など生涯スポーツに繋がる地域に密着した活動へと変わっていききましたね。町民運動会も町民運動会という町全体の行事から公民館単位で行う行事となるなど、転換期の活動を経験してきました。

これから目指していきたいことは?

我々スポーツ推進委員は、スポーツをとおして地域住民に密着した活動をしていきたいと考えています。市内には、地域活動や芸術活動を行っている方がたくさん居られますが、そういった方々にも少しでいいので体を動かすことをお勧めしたいですね。そのために、多くの市民の皆さまが健康について意識づけができる環境を提供していきたいと考えています。

スポーツの重要性とは?

スポーツの役割は、世代ごとによって変わっていきます。小さい子どもや学生の頃は、部活動やクラブ活動をとおして身体の発育を促し、成人では人とひととの交流を求めるコミュニティづくりのためのスポーツを行い、そして高齢の方は健康づくりのために身体を動かすなど、それぞれの世代で達成感や連帯感などを持つことが、健康づくり

や地域コミュニティの形成にもつながっていくと感じています。

活動をとおしての思い出

現在、市全体として実施しているソフトバレーボール大会やグラウンドゴルフ大会などが各地区に広まり、活動として定着していることですね。20年ほど前までは、市全体での中央大会などは行われていませんでしたが、グラウンドゴルフやソフトバレーボール等のニュースポーツを各公民館単位で広めた結果、カタチとして残ったことはとても嬉しかったですね。また現在は、各地区でパラリンピック競技であるポッチャが広まっており、今年度の鹿嶋市地区対抗球技大会でもポッチャの部を初めて開催する予定です。スポーツは時代と共に変化していくので、市民の反応を確認しながら、今後も様々な活動を展開していきたいと思っています。

市民スポーツと健康づくり

市民スポーツは健康づくり以外にも人との交流や仲間同士で活動したいなど目的は様々ですが、スポーツは地域コミュニティをつなぐことにも役立っています。スポーツをとおして心身ともに健康にし、健康寿命を伸ばしていきたいですね。

PROFILE

- おおいわ いちろう
- ・鹿嶋市平井在住
- ・鹿嶋市スポーツ推進委員連絡協議会 会長
- ・鹿嶋市スポーツ推進審議会 委員
- ・座右の銘
「何事も経験である」
- ・趣味はウォーキング、カラオケ、街道歩き

活動風景



▲令和元年度 出前講座(波野小学校) ▲令和元年度 橋巡りウォーキング



CONTENTS

- 2 地域活動学習会を各地区で開催
- 2 知っていますか?
あなたの地区のコミュニティプラン
- 3 市民センのひろば
- 3 地域レポート・まちづくり探検隊
『鹿嶋市どきどきセンター』
- 4 INTERVIEW ROOM・きらり★まちづくり
『鹿嶋市スポーツ推進委員連絡協議会 会長 大岩 一郎さん』



令和3年度前期市民カレッジ 終了 『SDGs(持続可能な開発目標)って何だろう?』

コメント① 講師：茨城県環境アドバイザー 小川 達己 さん

今回の講座では、現代的課題である「SDGs」を日常生活に関連づける内容で学習しました。第3回で実施したワークショップでは、発言も多く、環境保全に対して自分事として捉えることができたのではないかと思います。難しそうな課題ではありますが、身近にできることはたくさんあります。子どもたちの『未来』のために今できることを頑張りましょう。

コメント② かしま環境ネットワーク 会長 須藤 謙 さん

「SDGs」を地域版、自分版に落とし込んでいくことの必要性を感じました。今後の活動では、私たちの活動が循環の輪のどこに位置しているのかを考えて事業構築をしていきたいと思っています。「SDGs」をまだ知らない人たちに伝えていく活動もこれまで以上に進めていきたいです。

コメント③ 受講生：橋本 真子 さん

今回の講座で印象に残ったのは、「SDGs」のそれぞれの目標が相互に深く関係しているということです。自分事としてこれから行動していきたいです。

コメント④ 受講生：西原 真理子 さん

個人の努力だけでは、気候変動は抑えられないが、その影響を軽減するための対策はできるので、これからはなるべく地球に優しい生活をしていきたいです。

地域活動学習会を各地区で開催

『地域コミュニティを創造する市民活動と公民館』について考える

鹿嶋市まちづくり連絡協議会(会長：小堀 一さん)が取り組み、昨年度作成した「地域コミュニティプラン」を活用・推進するために、市民組織のあり方や活動を支援する公民館の役割を検討する地域活動学習会が10月から11月にかけて延べ5日間、10地区公民館で開催されました。

学習会は、地区まちづくり委員会を中心に各種団体からの参加を得て開催され、参加者は講師との意見交換や今後の活動に向けたアドバイスに耳を傾けていました。

講師には、茨城県生涯学習・社会教育研究会会長の長谷川幸介(はせがわ こうすけ)さんをお招きし、学習会では「地域コミュニティを創造する市民活動と公民館」について講話をしていただきました。講話では、「様々な生活課題に対応するため人間は4つの縁(血縁・友縁・地縁・職縁)という網を張って対応してきましたが、核家族化が進み、ライフスタイルの変化に伴い、血縁、地縁の網が小さくなってきている。それぞれの縁、特に地縁の網をより大きくしていかなければならない。」と述べられ、地域コミュニティの必要性や重要性を再確認することができました。

参加者からの「各種地域活動団体や自治会などの活動を引き継ぐ人材(若者)を育てていかなければいけないが、どうしたらいいのか。」という問いかけには、「地域活動をするうえで若者の役割について現代的に考えていくことが大切。」とし、新しい地域社会の変化に対応した組織体制の構築のためのアドバイスをいただきました。

また、今回参加した皆さんの声には、「各団体の意見や状況を細かく聞くことができ、地域を見直す良い機会となりました。」「公民館の存在が倫理的にわかりました。」など地域と公民館の立ち位置を理解していただく機会ともなりました。引き続き、鹿嶋市まちづくり連絡協議会の活動として公民館と地域活動団体の役割を整理し、持続可能な地域コミュニティ活動の推進に向けた事業展開が図られていきます。



▲高松地区で開催された学習会の様子

知っていますか? あなたの地区のコミュニティプラン

コミュニティプランは、様々な地域活動の見える化やネットワークを図るために、地域住民が主体となって事業展開をし、さまざまな地域課題を解決するために各地区の実情に合わせて作成された市民の活動計画です。(問合せ:各地区公民館)

波野地区コミュニティプラン

『な 仲良く み みんなで の 伸ばそう「輝く波野」』



《数字で見る波野地区の姿》
基準日:令和2年4月1日

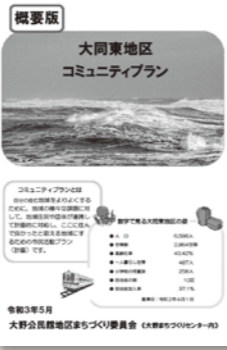
- 人口(5,650人)
- 世帯数(2,168世帯)
- 高齢化率(26.16%)
- 自治会数(10地区)
- 自治会加入率(53.4%)

《地域の魅力・資源》

- 地域内に多くの文化財や各所(波野の宝)が存在
- スポーツ施設が豊富等

大同東地区コミュニティプラン

『潮風香り、波高き鹿島灘・みどり豊かな農地・住むひとが笑顔あふれ、みんなに優しくできるまち』



《数字で見る大同東地区の姿》
基準日:令和2年4月1日

- 人口(6,598人)
- 世帯数(2,864世帯)
- 高齢化率(43.42%)
- 自治会数(10地区)
- 自治会加入率(37.1%)

《地域の魅力・資源》

- 鹿島灘の海岸(海と砂浜の景観や水産資源の保全)
- 培われた農地からの豊富な農産物の恵み等

開催
予告

令和4年2月6日(日)第18回鹿嶋市まちづくり市民大会を開催予定
テーマ『地域コミュニティを創造する市民活動と公民館のあり方』について考える

利用しています!! 市民センのひろば



言葉って、心、それとも社会の鏡? とにかく、構造、表現とかが違うと面白い。先生はサンパウロ出身、ブラジルに詳しいぞ。毎週集まっています。

ポルトガル語サークル
レーリング ヴェルナーさん(荒井)



サクソフォンとピアノのデュオで活動しています。今はコロナの影響で活動も低調ですが、一緒に音楽を楽しみませんか。仲間を募集しています。

ハッピーサウンド
西嶋 秀行さん(宮中)



団体紹介

カシマデンコドウコウカイ
「鹿嶋篆刻同好会」

江寺 昌三さん(荒野)

「篆刻(てんこく)」とは何か? 理解しにくい方もいると思いますが、篆書体(てんしよたい)を主に石を刻し、印にまとめる事をいいます。



私たち同好会は、月2回、第2・第4木曜日の午後には篆刻講座を開いています。会員が自分の印を創ることで、会員相互の共通の楽しみを分かち合い、また自己啓発を目的として活動を続けています。平成18年4月に設立して以来、早いもので、市民センターにお世話になり、15年が過ぎました。年1回の会員作品発表会を目標とし、これまで15回開催してきました。篆刻に興味のある方は、まず見学にお越しください。一緒に楽しみましょう。



▲日頃の活動の様子

地域レポート



『鹿嶋市どきどきセンター』



▲鹿嶋市どきどきセンター(粟生)

鹿嶋市どきどきセンターの前身は、鹿島町遺跡保護調査会という名称で、埋蔵文化財の整理事務所として活動していましたが、市民の方に鹿嶋の埋蔵文化財を身近に感じていただきたいという想いから、平成15年4月1日に現在の鹿嶋市どきどきセンターが開設されました。

鹿嶋市どきどきセンターは、郷土教育・生涯学習の推進を目的に活動しています。主に埋蔵文化財の発掘調査や保存、展示を行いながら、企画展や子どもを対象とした土器の発掘体験などを市内各所で実施しており、多くの市民の方が鹿嶋の歴史文化に触れる機会を提供しています。鹿嶋市どきどきセンター長の石橋美和子さんは、「鹿嶋市の歴史を知ってもらうことが未来の鹿嶋づくりにつながるのではないのでしょうか。」と話してくれました。

今年の目標は、市民の方に「鹿嶋の縄文時代を知っていただくこと」、「鹿島大助入形を普及させること」を目指して活動し、特に鹿島大助入形の普及については、今年の東京オリンピック鹿嶋市開催時にまちづくり市民センターで実施した「2020+1 KASHIMA文化交流フェスティバル」においてパネル展を開催し、大助入形ストラップ作り教室は好評を博しました。また現在は、地区公民館等の市内公共施設で鹿島大助入形を展示し、各地区に出向いてたくさんの市民に知っていただき、市民との共創により、鹿嶋の歴史をつくっていく事業展開に取り組まれています。

今後の活動について石橋センター長は、「より多く子どもたちに鹿嶋の縄文時代を知ってもらうため、引き続き出前授業などを実施し、鹿嶋の歴史文化を普及していきたい。」と話してくれました。鹿嶋の持つ悠久の歴史文化によって育まれる「かしまっ子」の将来に期待していきたいものです。



▲鹿嶋で発掘された土器展示の様子



▲土器の発掘体験の様子

掲示板

市民センターをご利用の皆さまへ

『第15回で〜5祭』
開催日が決まりました!

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、延期となっておりました『て〜ら祭』の開催日時をお知らせします。

日時 令和4年3月5日(土)・6日(日)
午前10時〜午後3時

会場 鹿嶋市まちづくり市民センター

内容 現在、実行委員会で検討中です。

主管 令和3年度鹿嶋市まちづくり市民センター祭(第15回で〜5祭)実行委員会

活動報告

詳細については
ホームページにて



市民センターのイベントや講座など随時更新!